

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	田上幸志 森住俊子, 土井正史
学力向上推進員	教諭(教育推進部長)	山田千代
委員	指導教諭(自立活動部長) 教諭(学部主事) 教諭(校務部長) 教諭(進路指導主事) 教諭(教務主任)	中田聖子 (小)福崎久美, (中)坂本美恵, (高)濱田純代 (学校生活)生田浩二, (支援・研究開発)佐藤和幸 森ひとみ (小)徳重有紀, (中)宮城利恵, (高)増田良太

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(I 類型) 児童生徒の状況		
よさ	課題	
学習に対する意欲があり, 自信がもてれば主体的に学習に取り組むことができる。	肢体不自由による認知特性(視知覚, 抽象的思考のつまづき)から基礎的学力(読み書き, 計算等)に弱さが見られる。また, 経験や体験の機会が少ないため, 生活場面への般化が不足し, 定着しにくいことが課題である。	
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
<p>【小学部】 読みや計算等, 日常生活に関連する課題に意欲をもって取り組み, 学んだことを生活の中で使うことができる。</p> <p>【中学部】 学習したことが生活に役立つことを理解し, 職業的自立に向けて基盤となる能力や態度を身に付ける。</p> <p>【高等部】 職業的自立に向け, 生活に直結した知識を習得し, 実生活で活用できる。</p>	<p>【小学部】 ①絵カードや単語カードを参考にしながら, 自分で三語文を作り, 発表できる。 ②時間割表での時刻の読み取りや時計の読み取りテストの正答率を80%以上にする。 ③時計を見ながら時間内に活動できることを80%以上にする。</p> <p>【中学部】 ①漢字検定8級の漢字の書き取り問題の正答率を60%以上にする。 ②買い物学習等で計算機を携帯し, 買い物の総額や税込み計算の正答率を80%以上にする。</p> <p>【高等部】 ①敬語の使い方を習得し, 「達成度テスト」で正答率を90%以上にする。 ②面接練習で適切な言葉遣いをすることができる。 ③消費税や割引の計算の正答率を計算機を使って90%以上にする。 ④修学旅行や校外学習の会計簿を自分で記入し, 金銭管理をすることができる。 ⑤郵便局や銀行などの公共施設の利用の仕方を知り, 自分で出金, 入金, 振り込みができる。</p>	<p>【小学部】 ①経験したことを思い出し, カードなしで三語文以上の文を作り発表することが100%できた。 ②〇時〇分の読み取りはデジタル表示では95%以上, アナログ表示では90%以上の正答率であった。 ③時計を見る習慣がついた。2学期後半からは80%できるようになった。</p> <p>【中学部】 ①聞き取り問題の正答率が70%となった。 ②買い物時に計算機で合計金額を計算し, 税込み金額をほぼ100%表示することができた。</p> <p>【高等部】 ①「達成度テスト」で正答率が80%であった。 ②丁寧な言葉遣いで話すことができたが, 尊敬語や謙譲語の使い方については間違っていた。 ③計算機を使って100%正確にできるようになった。計算式カードを利用して計算することもできた。 ④修学旅行のおこづかいや旅費の会計, 校外学習の費用を会計簿に記入し, 収支を計算機を使って正確に確認した。 ⑤郵便局や銀行, また, コンビニエンスストアに実際に行きATMや窓口で出金, 入金, 振込等が一人で行えるようになった。</p>
		評価 A

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>【全学部】 個々の認知特性や習熟度等を踏まえた上で、教員間で共通理解を図る。</p> <p>【小学部】 ① 単語や助詞カードを組み替えて文を作ったり、助詞の選び方を考える指導を行う。 ② 時刻・時間の指導ではスモールステップで目標を示し、自信を持って取り組めるように指導する。</p> <p>【中学部】 ① 国語では振り返りシートを作成し、毎時間学習の振り返りを行う。 ② 計算機を用いた指導を継続的に取り組み、買い物学習を年5回以上実施する。</p> <p>【高等部】 ① 複数の教員と面接練習を行い、あらたまった場での言葉遣いに慣れるようにする。事前にチェックリストを作成し、自己評価や他者評価の機会を作る。 ② 言葉遣いや金銭の指導では、学校で学んだことを校外で実際に使う機会を設定する。</p>	<p>【全学部】 桐ヶ丘特別支援学校の指導内容系統図やWISC-Ⅲ等を参考に用いて実態把握を行う。</p> <p>【小学部】 ① 名詞、動詞、助詞を意識できる指導を毎日1回以上、行う。 ② 1つの課題が終わる度に即時評価し、児童の「できた」「わかった」という回答率を80%以上にする。</p> <p>【中学部】 ① 振り返りシートでの達成率を70%以上にする。 ② 生徒から「計算機を用いて買い物ができた」という回答率を80%以上にする。</p> <p>【高等部】 ①②チェックリストの達成率を80%以上にする。</p>	<p>【全学部】 関係する教員に指導内容系統図を配付した。対象児毎に検査結果を基にケース会を1回実施し、特別支援教育巡回相談員や特別支援教育コーディネーターから専門的なアドバイスを聞いた。</p> <p>【小学部】 ① カードを組み合わせて文を作る、助詞を選び空欄に入れる、文中の間違いを探す指導を行い、1日1回以上、指導場面を設定した。 ② 実態に応じた目標を毎時間示した。自信を持って取り組めるために、〇時〇分の読み取りを支援するための時計盤を作成したり、つまずいた時にヒントを出したりすることで、自分で気づくような工夫を行った。</p> <p>【中学部】 ① 毎時間、学習目標の設定を行い、自己評価を行った。達成率は85%であった。 ② 計算機を用いた買い物学習を5回実施した。</p> <p>【高等部】 ① 2学期に国語担当者が敬語の授業の中で、2回面接練習を行った。他、ホームルーム担任がとくしま特別支援学校技能検定(接客)に向けて敬語を含む言葉遣いの学習を繰り返し実施した。 ② 買い物や飲食、バス利用の機会を7回設けて、購入代金や利用料金の消費税や割引の計算をし、帰校後はレシートで確認した。併せて、計算式を忘れた時に使用できるカードを作成した。</p>
* 中間期の見直し		

達成状況を踏まえた改善事項

学んだことを生活の中で生かす内容を、一人一人の児童生徒について具体的に設定し取り組んだ。個々に応じた手だてで指導を行った結果、それぞれに成果が見られた。今後も引き続き、生活の中で活用できる学力を育てると同時に、I 類型の児童生徒の課題を再検討しながら自己有用感を育てる取組を実施していきたい。

(II～IV類型) 児童生徒の状況

よさ	学校生活の中で、持てる力を発揮しながら学習に取り組んでいる。興味のあることや能力に応じた適切な課題であれば、短時間集中して取り組むことができる。	課題	重複障がいにより、外界を捉える力や表出する力が弱く、健康面や運動面での制約があることにより、生活経験が限られている。児童生徒の実態が多岐に渡っているため、一人一人の教育的ニーズを把握する必要がある。
----	--	----	---

具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
自立活動の時間に、一人一人の課題に取り組み、生きる力を身に付ける。	一人一人の課題に関する2学期の自立活動の目標について、「できた」、「時々できた」の達成率を80%以上にする。	一人一人の自立活動の目標設定や実態に応じた指導の手立てをケース会で話し合い、教員間の共通理解のもと指導を行った。児童生徒(II～IV類型)の自立活動の目標に対する達成率は84%であった。
		評価 A

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
課題を明らかにするためのケース会を実施し、自立活動の指導を計画的に行う。	① 全児童生徒についてケース会を実施する。 ② 自立活動に関する研修会を年3回以上実施する。	① 児童生徒一人ずつのケース会を毎学期1回ずつ、個別の指導計画に関する話し合いを実施した。 ② 食事指導やコミュニケーション、発達、身体の動きに関する全体研修を4回、希望研修を1回実施した。
* 中間期の見直し		

達成状況を踏まえた改善事項

一人一人のケース会を実施したことで、実態に応じた自立活動の目標や指導の手だてを設定でき、成果が得られた。今後も、一人一人に応じた指導を明確にしていくと同時に、Ⅱ～Ⅳ類型の児童生徒にとっての生きる力をより具体的に設定して取り組んでいきたい。